

THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO-GREEN

東京グリーン

CHARTERED 1973

< 2021.07 >

BULLETIN

2021年7月～2022年6月



国際会長 キム・サンチュ“Y's Men with the World”「世界とともにワイズメン」(韓国)
アジア太平洋地域会長 大野 勉「100年を越えて変革しよう」(神戸ポート)
東日本区理事 大久保知宏「私たちは次の世代のために何ができるか？」(宇都宮)
関東東部部長 大澤和子「私の地域から世界に広げよう青少年を支えるワイズの輪・和・ワッ！」(所沢)
クラブ会長 樋口順英「力まず、愉しく、安全・安心」(東京グリーン)

会 長 樋口 順英
副 会 長 浅見 隆夫
副 会 長 青木 方枝
書 記 布上征一郎
会 計 青木 方枝
監 事 柿沼 敬喜
担当主事 木村 卓司

7月 ボランティア

わたしは、だれに対しても自由な者ですが、すべての人の奴隷になりました (コリント I 9 章 19 節)。

<自由であるからこそ、進んで他の人の奴隷(徹底した奉仕者)になることをパウロは勧めた。ワイズのボランティア精神をもう一度心に刻み付けよう>

2021年07月 キックオフ 例会



Zoom オンライン例会

日時:2021年07月21日(水) 15:00～17:00

Zoom ホスト:司会布上君

開会点鐘	樋口 会長
ワイズソング・ワイズの信条	全 員
聖句・お祈り	西 澤 君
新 会長挨拶	樋口 会長
ゲスト・ビジター紹介	樋口 会長

(スピーカー紹介) "

ゲストスピーチ 上條 直美 様(開発教育協会)

「SDGsのこころを学び、ワイズ活動に活かそう」

PPT資料を Zoom で画面共有して・・・

関東東部関連情報	柿沼 直前部長
神田川関連報告	目 黒 君
YMCA 情報	木 村 君
Happy Birthday 新倉健司メン、塩入淑子(特メネット)	布上信子メネットの3名
閉会点鐘	樋口 会長

2021 新年度を迎えて

会長 樋口 順英



「主題;力まず、愉しく、安全・安心」
はじめてクラブ会長を拝命しました樋口です。

私はワイズのキャリアも少なく、なにぶんわからないことが多く戸惑うばかりですが、一生懸命つとめさせていただきまますのでよろしくお願いたします。皆さまご指導お願いたします。

さて昨年度は、イベントはほとんど中止、例会はほとんど Zoomとなりました。メンバー同士が顔を合わせる機会が減り寂しい思いをしましたが、電話やメールなどでも連絡を取り合ってきました。

今年度も、長年培われた強い絆を大切に、あまり力まずに「安全と安心」に十分に配慮し、納涼例会、クリスマス例会など工夫しながら愉しく活動していきたいと思ひます。

「神田川船の会」活動は、従来からアピールしてきた水質、治水、水辺環境等の課題に向き合い、なんとか19年春以来、2年ぶりに復活できればなあとと思ひます。合わせ、青少年の課外環境学習にも力をいれたいと思ひます。

【例会出席率】 在籍:16名 メーキャップ 2名 出席率 9/16 57%

出席: 6月 ZOOMリモート例会 (メン7名、メネット1名) 計8名

【ニコニコ】 6月例会 ZOOM例会にて献金は無し。

2021年06月 第一例会報告



6月16日(水)
ZOOMにて
15:30-17:00
例会を開催。

出席者:青木・柿沼・木村・佐野・布上S・西澤・樋口
布上N(メネット)(8名)

6月16日(水) 今期クラブ最終回のリモート例会
内容は「コロナ禍の一年半」と題し、主にステイホーム
での過ごしぶりを語るか、整理していた写真などの思い出
を話すことを企画した。(以下、その一部を

ダイジェスト版で紹介)



【古平光市メン・邦子メネット】

コロナ禍の最中に浅草から長野県へ
引っ越しました。浅草教会での思い出
のスナップ。東京での例会やリモート
会合には参加したいです。



【青木方枝メン】

毎日毎日マゴちゃんのお世話で大変です。
この時期、家に送られた花を眺めては癒されています。



【布上信子メネット】

ステイホームで3月、4月の
2か月で、千羽の「千羽鶴」を
折りました。
左は日の出、右は舞い降りる
鶴をイメージしています。

【樋口順英メン】

テレワーク日常化(この3月で勤務終
了)により予期せず「働き方改革」が実
現し、時間の余裕が出来て、いままで
やりたくてもできなかったことがずいぶ
んでできるようになりました。
手料理の厚焼き玉子、鯛の昆布締め、
酒は米沢の「雅山流」を堪能していま
す。



【西澤絨一メン】



コロナ禍で家にこも
ることが多くなり読書
や音楽と共に、古い
写真の整理にも時間
を使えた、大学2年
生の時、当時の近江
八幡 YMCA の H 氏

の勧めで、フィリピン YMCA 主催するワークキャンプに参加
することになった。特に夜は、校庭に寝ころびながら空を
見上げると天の川と南十字星が光り、神秘的でさえあった。
当時の写真を見ることに、その時の映像が鮮明に頭に浮
かぶ。この時の思い出が、ワイズにおいてユース事業に
興味を持つキッカケとなった。

【佐野 守メン】 オリンピック・パラリンピックの開催向け
てボランティア活動が本格的
になってきました。私はパラ
リンピック関連のお手伝いをし
ていて、コロナ禍でも多忙の毎
日です。東京の厳しいコロナ
の状況が少しでも緩和することを願っています。



【目黒 卓メン】 「神田川船の会」は、コロナ以前の台風
の影響もあって、ここ2年開けぬままですが、隙間を縫っ



てガイドをすることもあります。今は、都合よき時に狙いの
場所へ出向いてガイドネタを仕入れています。概ね調子よ
く事が運んでも、昨今仕上げに一杯がやり難いのが玉に
キズ。毎年花見船に乗ります。今年の写真をひとつ。大横
川(旧大島川)で門前仲町に近い一画。兩岸の桜は見事
でしょう。水辺の花見処としては都内随一かも。

【布上征一郎メン】

東日本大震災 2011/3/11
から10日後に、東日本区
事務所の林茂博所長と二
人で2トン車で新越妙高~
仙台Yへ救援物資を運ん
だ事を思い出しています。



東京グリーン・キックオフ例会のご案内



2021年7月21日(水)

15:00~17:00

上條 直美 講師 Zoomオンライン講演

「SDGsのこころを学び、 ワイズ活動に活かそう」

SDGs (Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標)は、今や全世界で、国家、自治体、企業、法人、諸団体で取り組み、脚光を浴びています。

2015年国連サミットで採択された、地球上で「誰一人取り残さない」お互いが共存できるような持続可能な世界をめざすための2030年国際目標で、17のゴールと169のターゲットから構成されています。

この度、ワイズ活動新年度のはじまりにあたり、本テーマの実践に当初からご関心とかわりを持ってこられた元YMCA同盟、現特定非営利活動法人(特非)開発教育協会顧問 上條 直美 様にZoomにて卓話をいただき、SDGsのこころを学びたいと存じます。

<卓話者ご紹介>

- ① 上智大学外国語学部在籍中、アジアの大学生との国際交流活動、中学生との学習活動などを体験され、開発教育との衝撃的な出会いの下地となりました。
- ② ご卒業後、東京YMCAにて社会教育・青少年活動、地域・国際交流・国際協力・教育事業、環境教育などを経験されました。特に、日本の農と食を考えるプログラムであるYMCA農村青年塾との出会いは、ご自身に多大な影響を与えたとのことです。
- ③ YMCA同盟ご退職後は、(特非)シャプラニール=市民による海外協力の会、明治学院大学国際平和研究所、上智大学グローバル・コンサーン研究所、立教大学ESD研究センターなどのスタッフとしてご活躍されています。

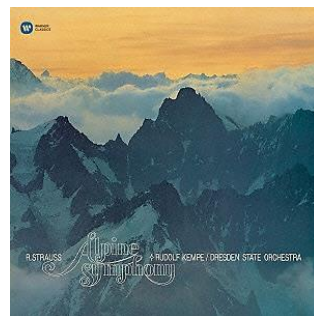


上條直美 講師

*ZOOMでの例会ご参加ご希望の方は東京グリーンクラブ書記:布上(s.nunogami@nifty.com)までご連絡を下さい。ZoomのURLをお送りいたします。

VIVA! Classical

「アルプス交響曲」究極の描写音楽



「アルプス交響曲」(1915)作品64
作曲:リヒャルト・シュトラウス(1864-1949)
指揮:ルドルフ・ケンペ(1910-1976)
演奏:シュターツカペレ・ドレスデン(1970録音)

ドイツ後期ロマン派の天才R・シュトラウスは、1864年、当時のバイエルン王国ミュンヘンの裕福な家庭に生まれ育ち、交響詩、オペラなどの作曲家としてのみならず、指揮者としてもドイツ音楽界に君臨しました。

「アルプス交響曲」は51才(大正4年)の作品。ミュンヘン南西部のガルミッシュ・パルテンキルヘンにあった彼の別荘で作曲されたといわれています。そこはオーストリアとの国境近く、風光明媚な避暑地だそうで、1936年第4回冬季五輪の開催地です。

曲は彼自身の登山体験をもとにつくられました。オーストリア・アルプスの長閑な自然を背景に、登山者の一日の出来事をつづった一大パノラマともいうべきものです。風景とともに登山者の気分なども絶妙に描写されています。ウォーキングを楽しむ方々には、きっと山登りの気分になっていただけたと思います。

演奏は120名もの大編成(舞台裏にホルン12本など)で、使用される楽器の種類も多く、滅多にコンサートで取上げられません。ぜひクーラーの効いたZoom部屋で、CDでお聴きください。5℃に冷えたドイツワイン(リースリングのKabinett)でも飲みながら。

曲の流れは次の通りで、全体が休みなく続けて演奏されます。

1. 出発の朝、白々と夜が明け、明るい太陽が昇ります!
2. 登山者はやる気満々、足取り軽やかに森を抜け、小川のせせらぎを過ぎ、いきなり小さな滝が表れます。聴きどころです。水しぶきがキラキラとまぶしい。花咲く牧場のそば、カウベルがのどかに鳴ります。途中道に迷ったり、氷河に足を滑らせそうになったりしますが、ついに頂上に到達。
3. 山頂でヤッター!とよろこび、壮大な景色を見渡して感慨にふけります。荘厳な山々に対面する登山者の健気な感情が美しいオーボエにより奏でられます。やがてあたりは薄暗くなり霧が立ち込めてきます。そしてすさまじい雷雨と嵐です。
4. 下山!「エラいことになったあ」と登ってきた道を急いで引き返し、日没を迎えます。そして一日を振り返り回想します。やがて夜のじまの中、深い眠りに就きます。

(樋口 順英 記)

1. 6月9日よりサマースクール、6月23日よりサマーキャンプの受付を開始しました。定員を減らし、スタッフ体制を手厚くして万全の感染対策の上プログラムを実施します。またコロナ禍の影響を含め経済的な理由でプログラムに参加が難しいご家庭を対象に、所得に応じて参加費を補助する「フレンドシップファンド」を積極的に活用予定。
2. 2020年7月に起きた熊本豪雨災害の被災者支援募金は、3月末までに950,928円が寄せられ、熊本YMCAと全国YMCAが協力して行っている被災者支援活動のために用いられました。また、コロナの影響を受ける青少年支援募金は、3月末までに2,799,583円が寄せられ、コロナ禍により困難な状況にある留学生、ユース、子どもたちを支援する活動のために用いた。
3. 6月28日～7月3日で第24回会員芸術祭が東陽町センターで開催されました。今年は40名52点の作品が出展されました。



4. 東京YMCA東陽町センターではコロナ禍で生活にお困りのご家庭を支援するため7月22日、江東区内9か所の子ども食堂と協力して「第5回フードパントリー（食品の無料配布）」を開催します。
【寄付いただきたい食品】
※賞味期限3か月程度の余裕のあるもの（2021年10月以降）・乾麺（蕎麦、うどんなど）・インスタント食品（インスタント麺、スープ、みそ汁など）・調味料・お惣菜の素（うちのごはん、クックドゥ等）・缶詰・レトルト食材（カレーの場合は甘口）・お米（できれば数kgパックのもの）・お菓子 など※その他の食品、日用品についてはお問い合わせください。
【寄付の方法】東陽町コミュニティーセンター（tel.03-3615-5565）に、事前にご連絡の上で持ち込みまたは郵送ください。皆様のご協力、ご支援をお願いいたします。

5. 今後の予定

- ・「長崎原爆被災写真」パネル展 7月7日～16日
会場：東陽町センター
- ・第35回国際ナショナル・チャリティーラン
（スマートフォンアプリを使ったウォーキングイベントとして開催）
個人参加：10月16日～22日
チーム参加：10月23日～31日

